

# 新年のご挨拶



玩具人形健康保険組合

理事長 戸所 正敏

あけましておめでとうございます。

被保険者ならびにご家族の皆様におかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より当健康保険組合の事業運営につきまして多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

健康保険組合を取り巻く情勢は依然として厳しく、人口の高齢化や医療の高度化による医療費の増大に加え、高齢者医療制度への納付金負担が財政の重荷となっています。全国健康保険組合の保険料収入に対する納付金の負担割合は、平成25年度予算の平均で46%にも上っており、本来の役割である保健事業に充てる財源にまで影響を及ぼしている状況です。

このようななか、政府は社会保障と税の一体改革に向け、社会保障制度改革国民会議において議論を進め、昨夏に報告書が取りまとめられました。現在、報告書の内容・方向に沿って関連法案の改正準備に取りかかっているところです。

健康保険組合に関わってくる内容としましては、70～74歳の患者負担割合の見直しなどの対策がみられるものの、健康保険組合の財政難の主因である納付金負担の軽減という点においては、何の対策もとられていないと言わざるを得ません。引き続き現役世代の負担軽減と持続可能な医療保険制度の再構築の実現を求めてまいります。

政府は昨年、成長戦略（日本再興戦略）として、すべての健康保険組合に取り組みを求める「データヘルス計画」を盛り込みました。これは、健康保険組合がもっている加入者の受診記録や特定健診・特定保健指導のデータを活用し、病気の重症化予防対策など、皆様一人ひとりに合った健康サポートを効果的・計画的に実施しようとするものです。健康保険組合にとりましては新しいチャレンジとなりますが、医療費の適正化につながると期待されている計画です。

当健康保険組合におきましても、予定されている平成27年の事業開始までしっかりと準備をしていくことはもちろん、引き続き健診を中心とした保健事業で皆様の健康をサポートしてまいります。皆様におかれましては、年に一度必ず健診を受け、体の状態をチェックして、日々すこやかに暮らしていただきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様のご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。